

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年12月19日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300735		
法人名	有限会社 あおいとり		
事業所名	グループホーム あおいとり	ユニット名	A棟
所在地	〒311-0134 茨城県那珂市飯田2388-5		
自己評価作成日	平成23年5月23日	評価結果 市町村受理日	平成23年12月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年7月14日	評価確定日	平成23年12月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の食事に関しては、旬のものや地元のを積極的に取り入れています。
------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>傾聴ボランティアを受け入れたり小学生や中学生との交流を支援しているほか、地域の盆踊りや敬老会、バザーなどへの参加を通して地域との交流を図っている。</p> <p>近隣住民から野菜のお裾分けがあったり散歩時に挨拶を交わすなど、利用者は地域とつながりながら暮らしている。</p> <p>利用者や家族等が希望するかかりつけ医への定期受診を職員が付き添っているほか、協力医療機関の医師による週2回の訪問診療の受診を支援し、結果を家族等に報告している。</p> <p>職員は適切な受診支援を行い利用者が安心して暮らせるように努めている。</p> <p>職員は食事が楽しみなものになるよう利用者の好物や苦手な食物を踏まえ、利用者一人ひとりに対応した食事の支援をしている。</p> <p>利用者と職員と一緒に栽培した野菜や、地域の人々から頂いた物を食材に取り入れている。</p> <p>ジャガイモの皮むきや豆の筋取り、下膳、トレー拭きなど、利用者は一人ひとりの能力に応じた役割を担っている。</p> <p>利用者と職員との関係は穏やかで感謝の言葉が聞こえている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここが私の家と思えるような環境を整え、自分も入りたいと思えるホームを作る」との理念を掲げるとともに、管理者や職員は、朝礼・職務の中で理念を確認し共有している。	開設当初からの理念をパンフレットに掲載したり談話室に掲示している。管理者や職員は朝礼や職務の中で理念を確認し、共有を図るとともに実践に努めているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成するまでには至っていない。	地域密着型サービス事業所として何が大切かを管理者や全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容を理念に加えることを期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員や利用者は、散歩時に近隣の人々と挨拶を交わすなど顔見知りの関係を築くとともに、季節の野菜をもらったり、地域のお祭りや敬老会に参加するほか、ホーム主催の行事に地域の人々が参加するなどで交流している。	傾聴ボランティアを受け入れているほか、中学生が体験学習で来訪したり小学生が夏休みなどに遊びに来て利用者や交流している。利用者は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしているほか、地域の人々からは野菜のお裾分けがあるなど日常的に交流をしている。職員は利用者が地域とつながりを持ちながら生活ができるよう、地域の盆踊りや敬老会、バザーなどへの参加を支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、学生の体験学習、ホームヘルパー2級、各実習の受け入れを通し、グループホームの在り方を伝えている。	/		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族等、区長、民生委員、地域包括センター職員、市職員参加のもと、2か月に1回実施している。会議では、利用者の生活状況を報告すると共に、利用者の家族から出た意見・要望について話し合っている。最近では、震災後の部署間での様子などを話し合った。	運営推進会議は家族会の代表者や市職員、地域包括支援センター職員、区長、民生委員などで2ヶ月に1回開催し、サービスの現状や行事、防災訓練、東日本大震災等について報告をしている。会議で出た意見等をサービスの質の向上に活かすとともに、会議録を作成し欠席者にも内容を報告している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市役所に出向く際は、担当者にホームの様子を報告し意見を求め、アドバイスを得ている。	市担当者が運営推進会議に出席しているほか、情報提供を受けている。生活保護受給利用者の生活状況確認などで、市の社会福祉課と連絡を取り合っている。管理者は市担当者に利用状況を報告したり事業所の課題を相談するほか、市主催のマネジメントワーク会議に参加するなど、密に連絡を図り協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・職員は身体拘束することで利用者が受ける弊害を理解するとともに、話し合いながら身体拘束しない支援に努めている。職員は常に利用者に目配りし、玄関や庭のフェンスは施錠していない。	談話室に身体拘束防止のポスターを掲示し、職員は玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。契約時に利用者や家族等に身体拘束廃除に向けた事業所の方針を説明している。身体拘束防止マニュアルを作成しているが、職員研修を実施するまでには至っていない。	身体拘束防止マニュアルにそった内部研修を行うほか外部研修受講の機会を設け、全職員が身体拘束をしないケアについてより理解を深められるよう取り組むとともに、研修の実施記録を作成することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を利用し、活用している。ホーム内には閲覧しやすい箇所にポスターを貼り付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を利用し、活用している。ホーム内には閲覧しやすい箇所にポスターを貼り付けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、契約書・重要事項説明書への記載・押印をお願いしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情受付担当者、及び第三者機関（那珂市保険課）の苦情受付窓口を明記している。職員は家族等の訪問時に話を聞くことを心掛けると共に、出た意見をその都度職員で話し合っている。苦情等があれば、その都度、記録するようにしている。	家族等の来訪時や電話連絡時、運営推進会議で利用者や家族等の意見や要望を聴き、出た意見等を運営に反映させている。家族等の意見が出易いように広報誌を年4回から5回発行し利用者の様子を報告しているが、アンケートを実施して意見や要望を汲みあげるまでには至っていない。契約書に苦情相談受付窓口として国民健康保険団体連合会が記載されているが、重要事項説明書には明記していない。	意見を出し難い家族等に配慮して具体的な項目に絞リアンケートを実施し、意見等を汲みあげ運営に反映させるよう取り組むことが望まれる。重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口として国民健康保険団体連合会を明記することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間内に10～30分ではあるが、職員間の意見を聞く場を設け、場合によっては後日にまとまった時間をとって、会議を行い、記録にとっている。	全職員で会議を開催することは難しいため、管理者は必要に応じてユニット毎に短時間の会議を行ったり、日々の記録から職員の意見や要望を確認し運営に反映させているが、職員の意見等を十分に汲みあげるまでには至っていない。管理者は出た意見等を記録しているが、記録簿に全職員の確認印を得るまでには至っておらず共有が図られていない。内部研修を開催していないため職員の気付きが少なく、運営に関する意見等の提案にはつながっていない。	職員の意見や提案をより多く汲みあげるため、職員アンケートの実施や定期的な会議の開催など、職員の意見等を汲みあげる機会を設け、出た意見等を運営に反映させることを期待する。年間計画を立てて職員研修を実施するとともに、会議録や研修記録に全職員の確認印を得て共有を図ることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・責任者が、職員の話をよく聞き、職員のストレスを緩和する取り組みをしている。また、職員同士で気付いたところを、その都度、指摘しつつ、常々業務への向上に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、勉強会などで研修内容の発表を行っている。また、管理者は指導・助言をしており、定期的な勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	お互いの職員の訪問時や外部研修等の機会に、意見交換しつつ、業務に反映させている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談に関しては、本人・家族・支援者等関係者それぞれの意向を、なるべく集まった形で、客観的に聴く機会を多く設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の相談に関しては、本人・家族・支援者等関係者それぞれの意向を、なるべく集まった形で、客観的に聴く機会を多く設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	あくまで、本人の気持ちを重視しつつ、関係者それぞれが「無理のない」形でサービス利用できるように対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大変な時には利用者が職員に労わりの言葉をかけて下さる。高齢者は人生の先輩なので、教えられる場面は多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も基本的には良好に保てている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は知人の訪問でゆっくり会話したり、利用者が長年生き続けた理美容室に継続して通うなど、これまでに人間関係や馴染みの場所との関係を断ち切らないよう支援している。	職員は利用者の生活歴や馴染みの人や場所との関係を把握している。 利用者の家族等や友人、知人が来訪しており、職員は寛いでゆっくり過ごせるように支援をしている。 職員は利用者が馴染みの時計店に修理に出かけたり、理・美容院の継続利用や行き慣れた店で買い物ができるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で関わりを持つことで、生活意欲に反映できる場面も多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	元利用者の家族の訪問も多い。ろよう		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者が自分の思いを伝えることが困難な場合には、表情や行動などから、思いや意向を把握するように努めている。	「外出希望」など利用者一人ひとりの希望調査を年度毎に行っているほか、職員は利用者との日々の係わりの中で表情や言葉から一人ひとりの思いや意向を把握し、会議等で話し合ったり日報や職員間の連絡帳に記録して共有を図っている。 意向の把握が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時に意見を聴き職員間で話し合い、利用者の思いや希望にそった生活ができるよう利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や要望など情報収集には家族を必ず交えている。アセスメントには日常会話の中で見え隠れしている訴えに目を向け、本人の希望や意向の把握に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や要望など情報収集には家族を必ず交えている。アセスメントには日常会話の中で見え隠れしている訴えに目を向け、本人の希望や意向の把握に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「本人の意向」「家族の意向」との形で情報を分けている。「本人の言葉」にも留意しつつ、種々の情報をプランに反映させている。期間設定はあくまで目安とし、見直しの必要性が生じた時点で、プランの変更を図っている。	日々の記録をもとに職員会議で利用者のケアについて話し合っており、介護支援専門員は職員から出た意見等や利用者や家族等の希望を取り入れて介護計画案を作成している。 介護計画案をもとに職員で話し合っ正式な介護計画を作成するとともに、家族等に説明して確認を得ている。 介護計画は設定期間毎に見直しているほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直しているが、モニタリングを実施するまでには至っていない。	介護計画はモニタリングや評価を行い見直すことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録として、身体状況・朝昼夕の過ごし方を具体的に記録している。それをもとに、統一されたケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかな予定は組んでいても、基本的には「何でもあり」に支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物・散歩・外食等、当たり前の暮らしができるように近所と顔見知りの関係を作る働きかけをしている。また、必要に応じて、市内各サービス事業者との情報交換を図りつつ、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は家族等や職員の支援を受けながら、かかりつけの医療機関で受診するとともに、受診結果は職員や家族等で報告し合い、共有している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への定期受診を職員が付き添い支援している。 適切な医療が受けられるよう、協力医療機関の医師による週2回の訪問診療を支援している。 受診結果を利用者に説明したり家族等に報告しているほか、記録して職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は確保している。基本的には看護職員を中心にして、適宜、対応へ指示を仰いでいる。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が頻りに面会に行き、医療機関との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の意思確認書を作成し利用者や家族等の意向を把握するとともに、家族等には状況に合わせて意思確認書の更新を促している。看取り介護実施要項を作成し、職員や医療機関、家族等の役割を明確にしている。	重要事項説明書に事業所の看取り介護に関する指針を明記するとともに、契約時に利用者や家族等に説明し同意を得ている。「重度化した場合における指針」や「終末期の意向確認書」を作成し、医療機関と連携して事業所としてできる限りのケアに取り組んでいるが、職員研修を実施するまでには至っていない。看取り介護の経過や利用者の状況を家族等に口頭で説明しているが、記録に残すまでには至っていない。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針に関する研修を実施し、共有を図ることを期待する。重度化した利用者の状態は日々変化するため経過を記録するとともに、家族等の意向や要望、職員会議の内容も記録に残し介護計画に反映させるなど、適切な対応ができるよう取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会に出席したり、定期的に研修を実施するなど、職員全員が応急手当を行えるように学習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火訓練は年2回定期的に行うとともに、飲料水を備蓄している。今回の震災に関しては、「動けなかった」ほどの大きい揺れもあり、一斉避難とまではいかなかった。建物の崩壊の危険が出た場合には、車を使用しての避難に留まるのではないかと地域住民からは井戸水の提供など、多くの便宜を図っていただいた。	消防署の協力を得て年2回火災避難訓練や通報訓練、消火器を使用した消火訓練を実施するとともに、避難経路を確認しているが、夜間を想定した避難訓練を実施したり、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。避難訓練の実施記録を作成し運営推進会議で報告をしている。東日本大震災時には水の提供があっても入れる容器が無いなどの事態が発生したため、それらの経験を踏まえて運営推進会議で話し合っているが、十分な備蓄品を確保したり、管理リストを作成するまでには至っていない。	夜間を想定した避難訓練の実施や避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう運営推進会議などで働きかけることを期待する。災害時に備え備蓄品の確保や管理リストの作成が望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の人格を尊重しつつ、支援している。利用者とのなじみの関係を築きつつも、呼称には留意している。	職員は入浴介助や食事介助、トイレ介助時には、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしている。プライバシー保護マニュアルは作成しているが、マニュアルにそった職員研修は実施しておらず、面会簿も玄関に置いてあり来訪者が自由に見ることができる。	マニュアルにそった内部研修を実施したり外部研修受講の機会を設け、全職員が人格の尊重やプライバシー確保について理解を深められるように取り組むとともに、研修の実施記録を作成することを期待する。 利用者や来訪者のプライバシーが確保できるよう、面会簿を個別に記入できる面会用紙に変えるなどの工夫をすることを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が安心できる生活環境を作れるように一人ひとりに合わせた声かけ、スキンシップを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴・趣味等についての情報は入所時に家族から教えてもらい、記憶の中で一番鮮明な部分を把握してケアに活かすようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度来てもらう美容師に好みに合わせてカットしていただく。自己決定できる方には、自由にしているが、サポートが必要な方については、その人らしいお洒落に気遣っている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が日々楽しみにしている食事に力を入れている。自家菜園で出来た旬の野菜を多く使う献立を作成するとともに、おかずは目でも楽しむことができるよう小鉢に分けている。食材の下拵えや、梅干しなどの保存食も利用者の経験を活かしながら作っている。	利用者は一人ひとりの能力に応じて下膳やトレー拭き、ジャガイモの皮むき、豆の筋取りなどを行っている。 職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、楽しく食事ができるように支援をしている。 食事が楽しみなものになるよう旬の食材や自家菜園で収穫した野菜、地域の方から頂いた野菜など新鮮な食材を使用して季節感のある食事を提供しており、利用者の喜びとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調や状態によって、バランスを考えた献立を作り、大まかな摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは入居者本人に任せているが、困難な方は状況に合わせて職員が対応している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の状態に合わせてリハビリパンツやパッド、オムツに使用を検討するほか、排泄チェック表を活かし、時間を見計らってトイレ誘導をしている。	職員は利用者一人ひとりの排泄を記録するとともに利用者の様子からサインを察知し、声かけや時間を見計ってトイレ誘導をしているほか、身体機能に応じた排泄支援を行い、排泄の自立に向けた支援をしている。 利用者の希望を受けておむつは夜のみの使用とし、昼間は職員が適切にトイレ誘導することで、おむつを使用しないで生活ができるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	芋類・ヨーグルトなどを食事やおやつに取り入れ、便秘予防の取り組みの一つとしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴回数や時間帯は利用者の希望に沿って、体調を確認しながら支援している。	利用者の希望にそった入浴や寛いで入浴ができるように支援をしている。 利用者の体調や都合に応じてシャワー浴や清拭、足浴などの対応をしているほか、菖蒲湯などを取り入れて季節が感じられるように配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に合わせて、適宜、支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個人の処方箋をファイルに綴じており、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時には、本人に手渡しをし、確実に内服できているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに役割を持っていただき、出来る力を最大限に発揮できる場面づくりをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者は散歩や買い物、外食、地域のバザーなどに出掛けるほか、ドライブで車窓を楽しみ、気分転換を図っている。	利用者は家族等と一緒に外出したり外食に出かけているほか、職員と一緒に事業所周辺の散歩や買い物に出かけている。 利用者が楽しめるようにドライブや外食、りんご狩りに出かけたり、地域のバザーへの参加など、普段は行けないような場所への外出も支援しており、利用者の気分転換やストレス解消、五感の刺激を得る機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方は、職員が管理しているが、外出時にはお金を渡し、ご自身で買いたいものを選んでいただき、支払っていただく。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実際に電話がきた際には、本人と代わり、やり取りして頂いている。手紙のやり取りに関しても、必要に応じて、投函する手助けなどを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に大きな茶箆箆や神棚があり落ち着いた雰囲気になっている。暑過ぎず冷え過ぎないように空調機を利用して温度を調節している。ユニット間の通路に唐辛子や蓮の実を干し、見て楽しんだり、門付近ではプランターで季節の花や野菜を育てたり、庭にはベンチ・テーブルを置き、利用者が自由に寛げるよう工夫している。	共用空間には利用者の手作り作品や習字、月間行事予定表が掲示されているほか、ソファや畳コーナーを設置し、利用者がテレビを観たり会話をしたり、ぬり絵をしてゆったりと居心地よく過ごせるように工夫をしている。 職員が調理をしている様子や音、匂いが利用者の五感を刺激し食欲増進につながっている。 トイレや浴室は清潔に保たれている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたり、中庭に自由に出ることができるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に利用者が使い馴染んだ筆筒・テーブル・椅子を置いたり、昔書いた絵や手芸品、家族等の写真などを飾り、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者は居室に椅子や時計、手作り作品、ぬいぐるみ、シルバーカー、日用品など、使い慣れた馴染みの物品を持ち込み、安心して暮らせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて空間の調節を行っている。全体的な設備は入居者の目線に合わせており、手摺の配置は勿論、浴槽には立ち上がりやすいように椅子を用意したりの工夫を行っている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている ○ 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目標達成計画

事業所名 グループホームあおいとり

作成日 平成23年12月15日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念に地域密着型サービスの異議を踏まえた内容を加える。	具体的な言葉を理念の中に加える。	勉強会時に職員と共に協議する。	3ヶ月
2	35	災害時に備え、備蓄品の確保が出来ていなかった。	十分な備蓄品の確保。	発電機の用意。 水・食料を十分に確保する。	既に実施済み
3	5	身体拘束マニュアルは作成しているが、職員研修を実施するまでには至っていない。	研修に参加する。	マニュアルに沿った内部研修を行う。又、外部研修にも積極的に参加する。	6ヶ月
4	33	重度化や終末期に関する職員研修を実施するまでには至っていない。	研修に参加する。	マニュアルに沿った内部研修を行う。又、外部研修にも積極的に参加する。	6ヶ月
		看取り介護の経過や状況を記録に残すまでには至っていない。	看取り介護の経過や状況を記録に残す。	記録簿を作成する。	
5	36	プライバシー保護マニュアルに沿った研修が実施できていない。	研修に参加する。	マニュアルに沿った内部研修を行う。又、外部研修にも積極的に参加する。	6ヶ月
		面会簿の工夫。	面会簿の工夫。	面会簿の撤去。	

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。